

## 補習校学習者の言語習得と授業案

### 分科会

カルダー淑子  
Princeton Community Japanese Language School  
calder81@aol.com  
国際基督教大学公開セミナー  
March 28, 2009

## 海外在住者の言語力にかかわる諸要因

### 政治・経済・文化的要因

主流言語集団 vs. 母語集団  
(集団の力学)

### 教育・環境的要因

学校・家庭・対人関係  
(学習と社会での言語使用)

### 履歴的要因

渡航年齢・在外年数  
(個人の背景)

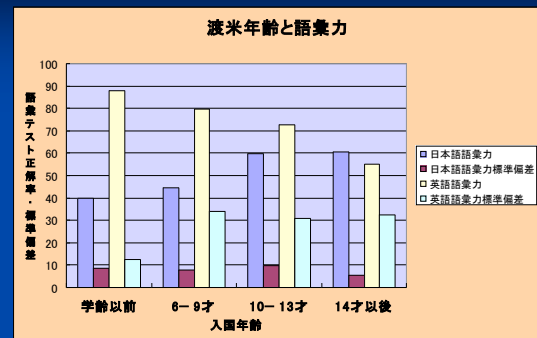
### 心理的要因

帰属意識・文化志向・動機  
(言語アイデンティティ)

## 北米東部地区補習校高校生調査

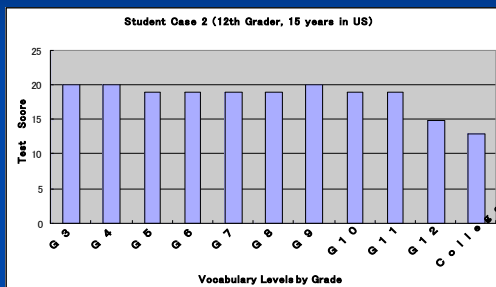
- 参加校: アメリカ東部地区主要8補習校  
(マサチューセッツからジョージアまで)
- 参加者数: 高校生122人 保護者92人
- 実施時期: 2004年9月-11月
- 内容: 日本語・英語 語彙テスト  
(日本語60問・英語220問 小3-成人レベル)  
生徒アンケート (84項目)  
(言語帰属意識・使用状況・目標値)  
保護者アンケート (59項目)  
(言語の履歴・家庭での使用状況・在住予定)

## 渡米年齢と語彙力の変化



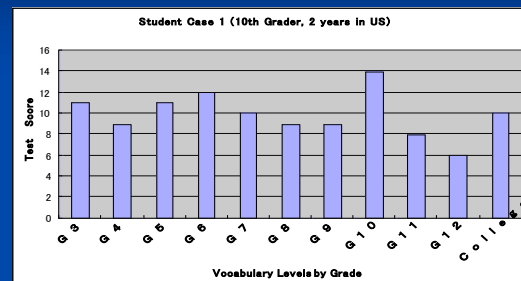
## 英語語彙力の伸び方 1

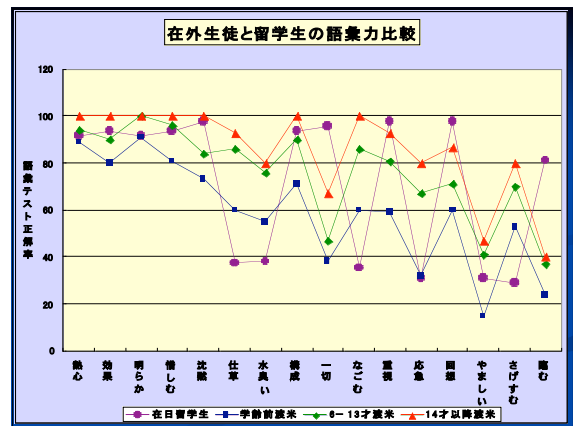
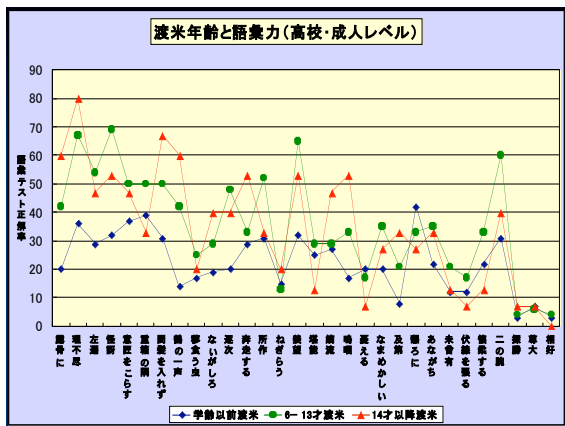
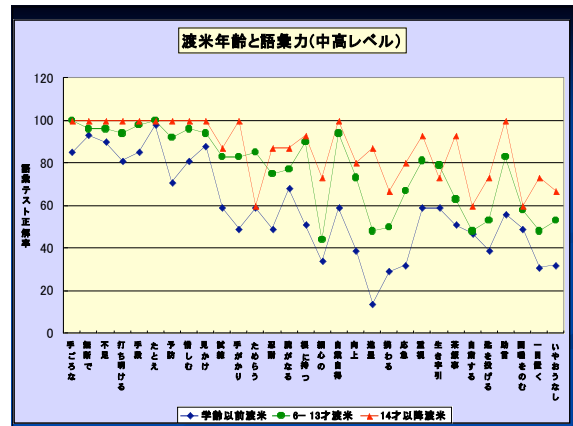
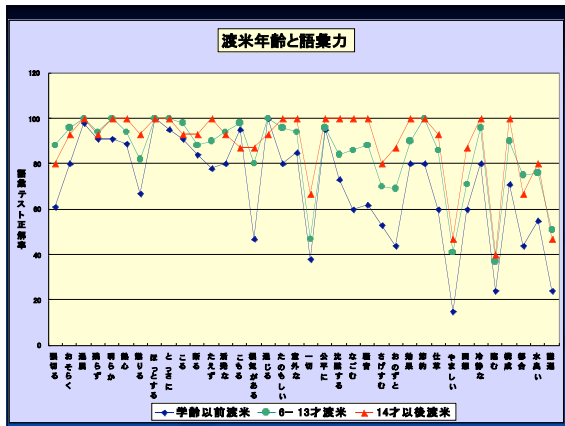
(在米15年・高校3年生のケース)



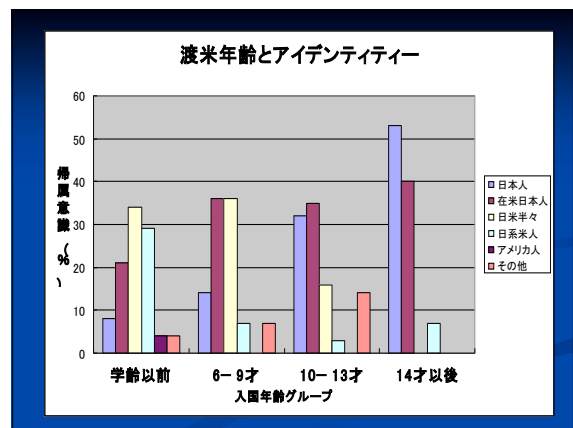
## 英語語彙力の伸び方 2

(在米2年目・高校1年生のケース)





- ### 長期在米生徒の総合的運用力
- OPIを補習校高校生に適用 (試行中 高校生N=7人)  
上級の中ー上に入る生徒が多い  
文型・文法の問題は少ない  
継続して話すことは出来るが論旨が散漫になりがち  
(若年継承語学習者の評価ツールとして適切か?)  
(コーパス作成の必要)
  - APテストを受験した補習校生には「5」が圧倒的(2007年)  
Mカーブの右の山 (JFLと受験者数を分けあう)  
弱点: 聞き取りの弱さ・考えすぎ・準備不足
  - 卒業生の自己評価(社会人になって実感する弱点)  
漢字の読み書き・敬語・社会的な語彙



## 帰国を決めた高校卒業生のスピーチから

- 私は日本へ進学することを決めた。いざ決めたはいいが、正直寂しい。現地の友人たちに大学はどうするのかと聞かれ「日本に行く」と伝える時…。「え？」の後で数秒沈黙が続く。周りで(友達か)どここの大学に受かった、と話している時。こういう時「アメリカに残ろうかな」と思ってしまう瞬間もある。そして、何よりアメリカでの高校生活はどこよりも楽しかったという事実が私を再びブルーな気持ちにさせる。
- ではなぜ私はこのような寂しい思いをしてまで日本を選んだのか、もっとグローバルな視野を身につけ、将来はインターナショナルな仕事をしたいと思い始めた私だった。「出るくいは打たれる」という風潮もある日本で、帰国子女である私がまきり活躍できる場所はあるのだろうか、このことで私の気持ちは揺れ動いた。バイリンガル・バイカルチャーの私たちは他の人にはない大きなアドバンテージを持っている。それを存分に発揮できるのは、今なお異文化を拒みがちな日本か、異文化が交じり合って構成されているアメリカか…。私の答えは日本であった。そんな日本と世界をつなぐ。そういう役割が果たせたいと思っている。
- 最終的に日本へ進むことを決めたが、私は絶対にアメリカで得たアイデンティティとアメリカに対する愛国心を忘れない。アメリカの歴史や文化、常識や法律、習慣、そして価値観は私の血やにくなっていくはずだ。そして、一段と成長して、私はかならずこの地に戻ってくる。

(話し手は日本生まれ、2歳で渡英、9歳で帰国、中3から高校卒業まで在米)

## 継承語学習者のニーズ

### Pedagogy

- 社会人としての語彙・漢字力の強化
- 読みのスキルの強化
- 聞き取りの強化
- 社会の多様な場面における言語使用を経験する
- 内容重視・総合学習型
- Authentic Material

### Perception

- アイデンティティを視野に入れる
- 多視点的なアプローチ
- 認知力と言語力の乖離を埋める
- 多様な言語力・背景の生徒の混在を有利に使う

14

## 年齢に基づく知的発達とは

### ピアジェの発展段階論

- 感覚・運動期(乳児期から1歳半) 物質的・感覚的運動期
- 前操作期(1.5-2歳から7歳くらい)  
具体的・直接的な知見に基づく判断  
自己を中心とする同心円視点  
行動から意識・抽象への移行期  
橋渡しは言語などの表象とされる
- 具体的操作期(7-8歳から11-12歳)  
表象の内面化と安定的な操作(安定した言語の使用)  
自己中心的視点を脱して他者との協調的な関係を構築
- 計式的操作期(11-12歳から成人前期)  
抽象思考の発達・論理性・倫理性への可能性

15

## 継承語カリキュラムの理論的枠組 (プリンストン日本語学校の例)

- 従来の国語教育の発想から離れる
- スタンダードと学習指導要領の混合
- 多視点的なアプローチ
- 具象から抽象への発想の移行を促す(年齢による発展)
- 生涯にわたる学習の継続を求めて (NECTJ継承語研究会)
- 学習者主体のアプローチ
- 総合的学習(他教科との連携)
- スタンダード準拠 (USA版+学習指導要領)
- 多様な評価方法(診断のための評価)
- 探求型・相互交流型アプローチ
- マルチエイジ・クラスの特性を生かす (Douglas, 2006)

(Douglas, 2006)

## 授業プランから

- UNESCO Learning To Live Together (多文化共生のための教育)
- 多様な視点からの教材選択
- Authentic Material (ナマの教材の使用)
- 過去の経験を将来につなぐ
- 授業案の例
  1. Peace Pack 島を作ろう
  2. 手で食べる・はして食べる
  3. 戦争体験を伝える
  4. 日系人の記録
  5. 日本の裁判員制度とアメリカの陪審員制度の比較

## AP Japanese Material 3 (Advanced)

### 米国民の57%「原爆投下は正しかった」世論調査から (日経新聞 2005年8月27日)

【ワシントン支局】アメリカの調査会社ギャラップは、8月6日に世論調査を発表した。この日は原爆投下から60年目にあたる。これによると、米国民の57%が、広島と長崎への原爆投下は正しかったと考えていることが分かった。これは10年前の1995年の調査の時の59%とほとんど同じである。調査は7月25日から28日にかけて、18歳以上の1010人を対象に行われた。原爆投下直後の1945年8月10-15日の調査では、投下を支持する人が85%だった。

課題例: 1945年、1995年、2006年の世論の変化を比べる  
原爆投下に対するアメリカの世論をグラフにする  
変化の原因を話し合い(英語・日本語)、簡単な文にまとめる

## 高等部JHLクラスの実践例

### ■ 文学＋現代史＋科学 (2週間 x 4コマ) 「ヒロシマ・ナガサキから核問題へ」

1. 導入:長崎・広島の世界史(写真・ビデオ・歴史書)
2. 短編通読 「夏の花」「ギヤマン・ビードロ」
3. 雑誌「TIME」 原爆投下60年特集(2005年8月)

#### 英文記事をグループに別けて速読

- (1) 被爆者の「その瞬間」と現在
  - (2) 被爆の科学的検証(熱エネルギー・生存率)
  - (3) エノラ・ゲイ乗員の証言(No regret)
  - (4) 核不拡散条約の現状
4. グループ別にまとめを日本語で発表(語彙リスト)
  5. ディスカッション(クラス)→作文(自宅で)

## Books on *Hiroshima/Nagasaki*

- Books in English
- Coerr, E. (1993). *Sadako*. New York: Putnam.
- Hersey, J. (1946). *Hiroshima*. New York: Vintage Books.
- Hogan, M.J. (1996). *Hiroshima in history and memory*. New York: Cambridge University Press.
- Lifton, B.J. (1985). *A place called Hiroshima*. New York: Kodansha International.
- Lifton, B.J. (1995). *Hiroshima in America*. New York: Avon Books.
- Murakami, Y. (1980). *Hiroshima no pika*. New York: Lothrop.
- Minear, R.H. (1990). *Hiroshima: Three witnesses*. Princeton Univ. Press.
- Okuda, S. (2008). *A Dimly Burning Wick: Memoir from the ruins of Hiroshima*. New York: Algora.
- Takaki, R. (1996). *Hiroshima: Why America dropped the atomic bomb*. Back Bay Book.
- Yamazaki, J., Fleming, L., & Takaki, R. (1995). *Children of the Atomic Bomb*. Duke University Press.
- Yoneyama, L. (1999). *Hiroshima traces*. Berkeley, CA: University of California Press.
- Books in English and Japanese
- Hiroshima Peace Memorial Archive (2007). *A-bomb drawings by survivors*. Tokyo: Iwanami.
- Kanagawa Atomic Bomb Sufferers Association (2005). *Wasurerarenai ano hi*. Nagasaki City (2000). *Records of the Nagasaki atomic bombing*. The City of Nagasaki.
- Books in Japanese
- 秋葉忠利 (2004) 「報復ではなく和解を-いまヒロシマから世界へ」東京: 岩波書店
- 中野通子 (1999) 「女子学生の長崎原爆の記録-時のかたみに」東京: 培星社
- 安斉育郎編 (2007) 「ヒロシマ・ナガサキ」東京: 岩波書店